

令和 5 年度 御幸小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

自ら学び 自他のよさを生かし合いながら たくましく生き抜く児童の育成

【合言葉】かしこく やさしく たくましく 笑顔いっぱい みゆきっ子

- ・【確かな学力】自ら考え学び合う子
- ・【豊かな心】 自他のよさを認め合う子
- ・【健やかな体】健康でねばり強い子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

【めざす学校像】

- ・ 児童が安心して登校し，自ら考えともに学び合う楽しさを味わえる学校
- ・ 教職員がチームとして高め合いながら，児童の成長を喜び合える学校
- ・ 保護者や地域が，地域の学校として誇りに思える学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

～自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成～

- (1) 教育目標の具現化並びに学力調査の結果を踏まえて課題を明確にし，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や地域資源を活用した創意ある教育活動の展開とカリキュラム・マネジメントの充実を図る。
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けて，発達の段階や個に応じて各教科等での3つの資質・能力を明確にして育成する。
- (3) 個々の児童の学びを支える言語能力や情報活用能力，将来に向けたキャリア発達等を促すため，各教科等との関連を明確にし，教科等横断的な視点から資質・能力の向上を図る。
- (4) 教員の授業力や学級経営力，ICTを活用した効果的な学びの確立を図り，教員のチーム力を高める。
- (5) 教職員の働き方改革を今後も進めるため，業務の効率化や勤務時間の適正化を一層推進する。

4 教育課程編成の方針

- (1) 目指す児童像の具現化に向け「なりたい自分になろう！みゆきっ子パワーアッププロジェクト」として、知・徳・体の調和を図りながら特色ある教育課程を編成する。
 - ① 基礎・基本の確実な習得と活用力の育成を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や一人一台端末の活用、言語活動の充実、個に応じた指導の充実に努める。
 - ② 互いのよさを認め合い励まし合う態度を育成するため、体験活動や心の教育を推進する。
 - ③ 心身の健康増進のため、基礎的な体力や健康管理能力、危険回避能力の育成に努める。
- (2) 全学年で取り組む共通目標については、学級活動において振り返り、児童自身のPDCAサイクルへの意識を高めることで、児童の主体的な態度や協働的な課題解決力の育成を図る。
- (3) キャリア教育との関連を図り、自己肯定感の向上や将来に向けたキャリア発達を促す。学年に応じて重点化を図り、保護者と連携したキャリアパスポートの蓄積に努める。
- (4) 言語活動の充実を図るために、各教科や特別活動等において意図的・計画的に推進したり、書く活動を授業や朝の学習等で取り入れたりする。
- (5) デジタル機器の効果的な活用とデジタル・シティズンシップの育成について計画的に推進し、質の高い学びの実現を図る。
- (6) 宇都宮学、SDGs等について、教科横断的な視点から各教科等との関連を十分に図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校経営

- ① 児童の学びの基盤である言語能力の育成や一人一台端末の効果的な活用、キャリア発達等については、各教科等の特質を踏まえた位置付けや重点化を図って育成する。
- ② 教職員の業務の効率化や勤務時間の適正化を行い、働き方改革を一層推進する。

(2) 学習指導

- ① 学習規律の徹底と基礎・基本の定着を図る。
- ② I C Tを活用した主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業実践を追究する。
- ③ 特別支援教育の視点を踏まえ、個に応じた指導の充実に努める。
- ④ 学校図書館司書やボランティア等と連携し、読書活動の充実に努める。

(3) 児童指導

- ① 集団生活マナーの徹底を図る。
- ② 個々のよさを認め励ます指導の充実に努める。
- ③ 道徳科を核とした宮っこ心の教育の推進に努める。
- ④ いじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応等に努める。

(4) 健康・体力

- ① 自ら健康・体力を高める意欲の向上を図る。
- ② 基礎的な体力、健康管理能力の向上を図る。
- ③ 家庭と連携した食を大切にする心の育成に努める。
- ④ 地域・家庭と連携した児童の安全確保、危険回避能力の向上を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価												
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	○主体的、対話的で、深い学びの具現化を図る。 ・「問い・見通し、課題解決、まとめ・振り返り」を基本とした授業実践 ・自分の考えを広げ深める、話し合い活動の充実 ・友達と協力して学び合う場の設定		【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>89.0</td><td>90.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td colspan="2">86.9</td></tr></table> ・児童、教職員の達成状況は指標を上回ったが、保護者は下回った。児童が「できる」「分かる」授業の実現に向けて全教職員で取り組み、授業の工夫改善に努めてきたことが成果として表われたと考える。		R 4	R 5	児 童	89.0	90.5	教職員	100	100	保護者	86.9	
				R 4	R 5											
児 童	89.0	90.5														
教職員	100	100														
保護者	86.9															
B	【次年度の方針】 ・宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した分かりやすい授業づくりに努める。また、共同作業や問題解決的学習など、児童同士が協力し合ったり教え合ったりする交流の場を設定し、考えを伝え合う楽しさや学び合うよさを実感できるような授業や教育的活動の充実を図る。															

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○道徳や特別活動を通して自他のよさを認め合い豊かな心の育成を図る。 ・考え、議論する道徳の授業実践 ・学級活動、委員会・縦割り班活動、地域との交流活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>88.6</td><td>89.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td>95.3</td></tr><tr><td>地 域</td><td></td><td>100</td></tr></table> ・児童の達成状況のみわずかに指標を下回っているが、教職員、保護者、地域の指標は達成している。関連する授業を公開したことが、保護者や地域への理解に繋がったのではないだろうか。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続していき、特に児童の自己肯定感を高めていきたい。		R 4	R 5	児 童	88.6	89.8	教職員	100	100	保護者		95.3	地 域		100
		R 4		R 5															
児 童	88.6	89.8																	
教職員	100	100																	
保護者		95.3																	
地 域		100																	
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	○目標を設定して取り組ませる指導を行う。 ・児童のよさを認め励ます指導の徹底 ・学期や年間の個人目標や学級目標の設定と振り返り ・キャリアパスポートや元気っ子ファイルの有効活用 ・音読・計算カードを含めた家庭学習に関わるカードを活用し、目標やめあてを設定して学習に取り組ませるとともに、家庭との連携を図りながら指導を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>89.0</td><td>86.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>95.8</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.2</td><td>81.5</td></tr></table> ・児童、教職員の達成状況は下がったが、指標は上回った。保護者の肯定的回答割合は上がっているが、目標指標には達成しなかった。 【次年度の方針】 ・学期や年間の個人目標や学級目標を振り返り、目標を達成できた喜びや自分の成長を実感できる機会を設定していく。キャリアパスポートを有効に活用し、保護者から励ましの言葉を書いてもらうなど、家庭の理解と協力を図る。また、家庭学習に関わるカードを活用し、目標に向かって学習に取り組もうとする意識をもたせるようにする。		R 4	R 5	児 童	89.0	86.5	教職員	100	95.8	保護者	74.2	81.5			
	R 4	R 5																	
児 童	89.0	86.5																	
教職員	100	95.8																	
保護者	74.2	81.5																	
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○健康・運動への意欲の向上を図る。 ・外遊びやサーキットトレーニング、スポーツウィークの推奨 ・感染症対策の徹底を含めた家庭と連携した健康への意識の高揚 ・養護教諭と連携した保健指導 ○望ましい食習慣づくりを推進する。 ・おにぎりの日とお弁当の日の実施 ・栄養士と連携した給食指導の充実 ○安全意識の向上を図る ・避難訓練や交通安全教室を通した対応力や危険回避能力の育成 ・一斉下校時の指導の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>92.7</td><td>89.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.2</td><td>95.8</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.0</td><td>89.0</td></tr><tr><td>地 域</td><td></td><td>100</td></tr></table> ・健康や安全についての取組は行っていたが、児童・保護者とも微減し、達成目標値に届かなかった。 【次年度の方針】 ・体力テストで課題があった種目について、具体的な手立てとしてサーキットトレーニングを行っていく。また、様々な運動に関われるように、スポーツウィークを行っていく。家庭と連携しながらお弁当の日の充実を図っていく。交通安全については、家庭や地域と情報を共有し、安全指導を徹底していく。		R 4	R 5	児 童	92.7	89.8	教職員	96.2	95.8	保護者	90.0	89.0	地 域		100
	R 4	R 5																	
児 童	92.7	89.8																	
教職員	96.2	95.8																	
保護者	90.0	89.0																	
地 域		100																	

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	○目標を設定して取り組ませる指導を行う。 - 児童のよさを認め励ます指導の徹底 - 家庭と連携したキャリアパスポートの蓄積 - 縦割り班活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>89.0</td><td>85.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>74.2</td><td>87.5</td></tr><tr><td>保護者</td><td>100</td><td></td></tr></table> ・児童、教職員ともに指標を達成している。児童の数値が昨年度より低下しており、市平均より低値である。自己肯定感の低さが原因ではないか。 【次年度の方針】 自己肯定感を高めるために児童相互に認め合う活動を取り入れる。		R 4	R 5	児 童	89.0	85.5	教職員	74.2	87.5	保護者	100	
		R 4		R 5												
児 童	89.0	85.5														
教職員	74.2	87.5														
保護者	100															
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	○英語に親しみ積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育てる。 - ALT と連携した授業の充実 - 英語に親しむ環境整備 - 日常生活における ALT との交流機会の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>86.8</td><td>77.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・教職員の達成状況は 100%であるが、児童においては昨年よりも数値が下がり、目標指標も下回っている。 【次年度の方針】 英語でのやり取りや習った表現を使って考えを伝える機会を設定し、言語活動の形態を工夫した授業を展開していく。また、英語を使った体験的活動など、児童が意欲的に参加できる活動を取り入れ、英語による対話を楽しめる授業を工夫して行う。		R 4	R 5	児 童	86.8	77.3	教職員	100	100			
	R 4	R 5														
児 童	86.8	77.3														
教職員	100	100														
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	○教科や総合的な学習の時間で、御幸地区や宇都宮の特徴を考えさせる指導に努める。 - 宇都宮学の確実な実施 - 地域の歴史や文化、食などの地域資源や人材を生かした教育活動の充実 - 取組の様子を HP や授業参観時に掲示物等で発信	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>87.4</td><td>83.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.2</td><td>91.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>70.1</td><td>73.0</td></tr></table> ・3 階にある「宇都宮学コーナー」のすばらしい展示物をまだ保護者に知られていないのか、未だ 70%台である。 【次年度の方針】 今年度の取組をベースにしつつ、親子で取り組む活動を取り入れ、親子共々の認識を上げる。		R 4	R 5	児 童	87.4	83.6	教職員	96.2	91.7	保護者	70.1	73.0
	R 4	R 5														
児 童	87.4	83.6														
教職員	96.2	91.7														
保護者	70.1	73.0														

2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の 肯定的回答率 85%以上	○積極的に活用した学習機会の充実に努 める。 ・学年や教科に応じた効果的な活用 ・児童の情報活用能力の育成 ・図書室の活用と図書館司書との連携	B
---	---	---	---

3ー(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	○いじめ防止への意識の高揚と適切な対応に努める。 ・「いじめ」をテーマにした道徳の授業 ・学校・学年だよりによる情報発信 ・委員会でのいじめ防止集会等の実施 ・いじめ0標語やポスター制作・掲示 ・教育相談やアンケート（年4回）実施 ・保護者の考えるいじめ0標語の募集・掲示	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>97.5</td><td>94.4</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.7</td><td>83.8</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・保護者のみ指標に届いていない。昨年度と同等の数値であり、いじめに対しての保護者の意識を変えていくことは難しい。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続し保護者に向けて情報を発信していく。 ・児童主体の取り組みをさらに深化させていく。		R 4	R 5	児 童	97.5	94.4	教職員	100	100	保護者	84.7	83.8	地域住民	100	100
		R 4		R 5															
児 童	97.5	94.4																	
教職員	100	100																	
保護者	84.7	83.8																	
地域住民	100	100																	
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	○児童の実態の把握と児童の自己肯定感の向上に努める。 ・Q - Uや教育相談の結果を生かした不登校傾向の早期発見や早期対応 ・児童のよさを認め励ます指導の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>95.9</td><td>92.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.2</td><td>89.1</td></tr></table> ・数値目標を超えており、ほぼ昨年度と同様の結果だった。 【次年度の方針】 ・Q - Uや教育相談の結果を生かした不登校傾向の早期発見や早期対応や、児童のよさを認め励ます指導の充実に努める。		R 4	R 5	児 童	95.9	92.8	教職員	100	100	保護者	90.2	89.1			
	R 4	R 5																	
児 童	95.9	92.8																	
教職員	100	100																	
保護者	90.2	89.1																	
3ー(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○児童のよさを認めたり児童の主体的な活動の充実に努めたりする。 ・児童のよさへの積極的な称賛 ・各種委員会、児童会、縦割り班等で児童を主体とした活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>87.4</td><td>91.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td></td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.8</td><td>91.0</td></tr><tr><td>地 域</td><td></td><td>100</td></tr></table> ・様々な学校活動がコロナ以前に戻り、様々な活動が充実し、数値も前年度より上がっている。 【次年度の方針】 ・学校行事や授業参観など、様々な場面で児童が主体的に活動する場面を設けていく。		R 4	R 5	児 童	87.4	91.8	教職員		100	保護者	89.8	91.0	地 域		100
	R 4	R 5																	
児 童	87.4	91.8																	
教職員		100																	
保護者	89.8	91.0																	
地 域		100																	
3ー(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化																			
4ー(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	○授業のねらいや手立てを明確にし、個に応じた指導の充実に努める。 ・教材研究と個々の実態に即した支援の工夫 ・習熟度別学習、少人数指導の充実 ・かがやきルーム担当教員、特別支援学級担任との組織的な連携	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>97.5</td><td>95.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td></td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>86.8</td><td>80.9</td></tr></table> ・児童、教職員の肯定的回答率は、目標指標を達成しているが、保護者の割合は昨年度より大きく下がっている。 【次年度の方針】 ・かがやきルーム担当教員、少人数指導担当教員と連携を取りながら、支援が必要な児童の特性に合わせた指導を行っていく。 ・習熟度別学習やT・T学習が効果的に実施できるよう、児童の実態に応じた教材・教具の開発、個別な支援や手立てなど、学年全体で授業づくりを進めていき、きめ細やかな指導を充実させていく。		R 4	R 5	児 童	97.5	95.1	教職員		100	保護者	86.8	80.9			
	R 4	R 5																	
児 童	97.5	95.1																	
教職員		100																	
保護者	86.8	80.9																	

4ー（2） チーム力の 向上	A 15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力作 して業務に取り組んでい る。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 90% 以上	○教職員の良好な人間関係作りに努め、組 織力の向上を図る。 ・教職員間の情報共有と風通しのよい職 場環境づくり ・多様な専門性を有するスタッフとの連 携協力	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.2</td><td>100</td></tr></table> ・教職員の達成状況が 100%に達 した。 【次年度の方針】 ・教職員間の情報共有と風通し のよい職場環境づくりや、多様 な専門性を有するスタッフと の連携協力を努める。		R 4	R 5	教職員	96.2	100									
	R 4	R 5																
教職員	96.2	100																
4ー（3） 学校における 働き方改 革の推進	A 16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答率 85%以上	○学校の運営の見直しや行事等の実施方 法の改善を行う。 ・各種便りを HP やさくら連絡網で発信す るなど、印刷作業の軽減化 ・会議や打合せの効率化、行事の精選 ・ネットワークシステムの活用など効率 的な職務執行 ・リフレッシュウィーク（月 1 回）実施	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>88.5</td><td>87.5</td></tr></table> ・微減しているが、数値目標は達成 している。 【次年度の方針】 ・各種便りを HP やさくら連絡網 で発信するなど、印刷作業の軽 減化や、会議や打合せの効率 化、行事の精選に努める。ネッ トワークシステムの活用など 効率的な職務執行を継続し、リ フレッシュデーを実施してい く。		R 4	R 5	教職員	88.5	87.5									
	R 4	R 5																
教職員	88.5	87.5																
5ー（1） 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A 17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地 域の肯定的回答率 80%以上	○小中一貫・地域学校園の取組を効果的に 実施する。 ・あいさつ運動、乗り入れ授業等の実施 ・中学校訪問や宮っ子チャレンジでの中 学生との交流活動の実施。 ・小中一貫会議の様子をさくら連絡網、HP などで公開（情報発信）	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td></td><td>91.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.1</td><td>87.5</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.8</td><td>86.6</td></tr><tr><td>地 域</td><td></td><td>80.0</td></tr></table> ・あいさつ運動・宮っ子チャレンジ の実施により児童の達成感が高い が、教職員の数値は減少した。 【次年度の方針】 ・引き続き、あいさつ運動、乗り 入れ授業、中学校訪問や宮っ子チ ャレンジでの中学生との交流活 動を行う他、小中一貫会議の様子 をさくら連絡網、HP などで公開 していく。		R 4	R 5	児 童		91.1	教職員	96.1	87.5	保護者	74.8	86.6	地 域		80.0
	R 4	R 5																
児 童		91.1																
教職員	96.1	87.5																
保護者	74.8	86.6																
地 域		80.0																
5ー（2） 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5ー（3） 地 域 と 連 携 ・ 協 働 し た 学 校 づ く り の 推 進	A 18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 ・児童・教職員・保護者・地 域の肯定的回答率 90%以上	○地域の人材や企業と連携した教育活動 の充実 ・生活科、総合的な学習の時間、社会科等 における校外学習やリモート学習、出前 授業等の実施 ・あいさつ運動等、地域と連携した活動の 実施 ・保護者参加型の行事の情報発信並びに 参加の機会の複数化	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td></td><td>90.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td></td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.4</td><td>88.4</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td><td>100</td></tr></table> ・地域行事も通常通り行われるよう になり、児童も意欲的に参加してい る。あいさつ運動やすみれ給食 会、地域ボランティアなど、地域と 連携した活動も充実し、地域住民 の数値は 100%であった。 【次年度の方針】 ・地域の行事や企業と連携した教 育活動の充実を図る。		R 4	R 5	児 童		90.1	教職員		100	保護者	88.4	88.4	地域住民	100	100
	R 4	R 5																
児 童		90.1																
教職員		100																
保護者	88.4	88.4																
地域住民	100	100																

6－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	A 19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○安心・安全な環境づくりに努める。 ・毎月の安全点検等での危険箇所や修繕箇所の把握及び迅速な対応 ・修繕箇所の把握と計画的な修繕 ・構内での安全確保に関する情報提供や注意喚起	B
--------------------------	--	--	---

	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答率 90%以上	○集団生活のルールを守って安全に生活するための実践力の向上を図る。 「みゆきっ子生活スタンダード」の徹底 - 学年、学級による「きまりやマナー」、生活目標の指導 - 帰りの会や学級活動等での振り返り	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>82.6</td><td>90.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>88.5</td><td>95.8</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td>90.5</td></tr><tr><td>地 域</td><td></td><td>100</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者、地域の指標が達成された。 ・さらに高い目標を設定し、実践力を高めていきたい。 【次年度の方針】 - 一斉下校時に教員主導で行っていた振り返りを、振り返りカードを活用して児童が各自で行い、成長を実感させるとともに、記録を残していく。 - 生活目標のポイントを伝えたり、全校の達成状況を公表したりすることを、関連する委員会が行い、児童主体でよりよい学校にしていこうと取り組む。		R 4	R 5	児 童	82.6	90.5	教職員	88.5	95.8	保護者		90.5	地 域		100
	R 4	R 5																
児 童	82.6	90.5																
教職員	88.5	95.8																
保護者		90.5																
地 域		100																
	B 3 児童は自分のよさを理解し、より伸ばそうとしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	○児童のよさを認め励ます指導の充実に努めたり、互いのよさを認め合う機会の充実に努め、個々の自己肯定感の向上を図る。 - 帰りの会・学級活動などで互いのよさを認め合える機会の設定 - 各教科の学習活動での学び合いの場の設定	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>81.1</td><td>78.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>95.8</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.2</td><td></td></tr></table> ・児童のよさを認め、励ます指導の充実に努めてきたが、児童・教職員とも微減し、達成状況は届かなかった。 【次年度の方針】 児童がお互いに認め合える機会や場を設ける中で、児童一人一人が自分の成長に気づき、自己肯定感の高揚につなげられるようにしていく。		R 4	R 5	児 童	81.1	78.3	教職員	100	95.8	保護者	91.2				
	R 4	R 5																
児 童	81.1	78.3																
教職員	100	95.8																
保護者	91.2																	
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 4 児童は、授業中や集会等に、自分の考えを話したり、語彙力を生かして分かりやすく文に書いたりすることに慣れ親しんでいる。 【数値指標】 新規 児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	○授業中や集会等では、学年に応じた話し方を指導する。 《みゆきっ子パワーアッププロジェクト》かしこく 低学年 - 自分の考えを声の大きさに気を付けて話す。 - 友達の話を静かに終わりまで聞き、考えを伝え合う。 中学年 - 自分の考えを相手に分かりやすく話す。 - 友達の話をうなづきながら一生懸命聞き、話し合う。 高学年 - 自分の考えを理由をつけて分かりやすく話す。 - 友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、対話する。 - ぐんぐんタイムの活用を通して、学年・学級で日常的に漢字や語句の練習や文を書く活動に取り組む。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>70</td><td>75.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>88.5</td><td>91.7</td></tr></table> ・児童、教職員ともに、昨年度よりも数値が上がっている。今年度から取り組んでいる、朝のぐんぐんタイムの「書く活動」により、児童が自分の考えを文章で表現する意欲が高まってきていることがうかがえる。 【次年度の方針】 - 朝のぐんぐんタイムの「書く活動」の時間をさらに充実させ、自分の考えを文章で表現する力を伸ばせるよう指導していく。 - 授業の中で、目的に応じた話し合い活動を充実させるとともに、児童のよりよい考えや表現を生み出せるよう支援・指導を工夫していく。		R 4	R 5	児 童	70	75.3	教職員	88.5	91.7						
	R 4	R 5																
児 童	70	75.3																
教職員	88.5	91.7																

	B 5 学校は読書活動を積極的に推進している。 【数値指標】 ・教職員・保護者・児童の肯定的回答率 90%以上	○図書室利用を活性化するため、多様なジャンルの本に触れる機会をつくる。 ・司書によるブックトークやボランティアによるお話し会 ・各種イベントの実施 ○読書ファイルの活用や学年だより、図書だより等での呼びかけや家読の取組など、家庭での読書を奨励する。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td>76.3</td><td>77.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.2</td><td>86.6</td></tr></table> ・児童・保護者の達成状況は 90% に満たない。学校での活動がうまく伝わっていない。 【次年度の方針】 ・今年度の取組に以下のものを加える。 ○図書だよりの発行方法としてさくら連絡網だけでなくクラスルームにも掲載し、児童の目に触れやすくする。 ・中央図書館とも連携してブックトークを行う。		R 4	R 5	児 童	76.3	77.0	教職員	100	100	保護者	93.2	86.6
		R 4		R 5												
児 童	76.3	77.0														
教職員	100	100														
保護者	93.2	86.6														
B 6 学校は保護者と連携して、家庭学習の習慣化と基礎・基本の定着に取り組んでいる。 ・教職員・保護者・児童の肯定的回答率 80%以上	○学習効果が期待される家庭学習の取り組み方についての研究 ・保護者と連携した基礎・基本の定着 ・ステップアップシートの活用等、目標を明確にした学習意欲の維持・高揚 ・家庭学習への評価や見とり	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 4</td><td>R 5</td></tr><tr><td>児 童</td><td></td><td>72.7</td></tr><tr><td>教職員</td><td></td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td>79.9</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は 100% であるが、児童、保護者の達成状況は下回っている。 【次年度の方針】 ・漢字・計算力を高め、既習内容の確実な定着のために、AIドリルやステップアップシートを有効に活用し、基礎・基本力をさらに高めていく。 ・「家庭学習のすすめ」や「家庭学習カード」を活用し、家庭学習の推進と習慣化を図っていく。また、学級懇談会での話題として取り上げ、保護者に協力を呼びかけ、さらなる充実を図る。		R 4	R 5	児 童		72.7	教職員		100	保護者		79.9	
	R 4		R 5													
児 童		72.7														
教職員		100														
保護者		79.9														

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 めざす児童像の姿

- ・ A 7 の「宇都宮の良さを知っている」の肯定的回答は、保護者の回答は増加しているが、児童・教職員の回答率は減少している。宇都宮学コーナーを充実させたり、親子で取り組む活動を取り入れたりするなど、郷土愛の育成につなげていく。
- ・ B 1 の「あいさつ」については、教職員・保護者の肯定的回答は増加しているが、児童が減少している。児童の成長を実感できるよう折にふれ、話していく。

2 めざす教職員・学校像の姿

- ・ A11 の「いじめが許されない行為であることの指導」については、児童・保護者とも肯定的回答は減少となった。いじめ防止については、道徳や学級活動で取り上げる他、児童会主催の「いじめゼロ集会」でも呼びかけるなど児童自らの継続的な働きかけを続けているので、広く啓発の意識が伝わるよう、新たな手立てを講じていく。
- ・ A16 の「業務の効率化」については、教職員の肯定的回答が微減している。リフレッシュ day の活用の促進や、業務負担の平準化、ICT を校務に有効に活用することによる業務改善をさらに進めるなど、負担の軽減に努める。

3 本校の特色

- ・ B 4 の「自分の考えを話す」の児童の肯定的回答は上がっているが、B 3 の「自分の良さを理解し、伸ばそうとしている」については、児童の肯定的回答が減少している。朝のスピーチやペア・グループ学習を行うなど、児童が互いに認め合える機会や場を設ける中で、児童一人一人が自分の成長に気づき、自己肯定感の高揚につなげられるようにしていく。

7 学校関係者評価

- ・あいさつ運動の取組はとてもよいが、保護者が立哨している時には自分から挨拶できる子が少ない。校舎内外を問わず、あいさつできる児童になってほしい。
- ・自由参観日で来校したが、児童の絵画や書道等、子ども児童の成果などが教室の掲示物として貼られており、学級の様子が伝わってきてとてもよい。
- ・「高齢者との交流会（すみれ給食会）」が復活し、地域の老人はとても喜んでいる。
- ・「いじめゼロ集会」等、いじめの根絶に取り組んでいて、とても良いと思う。継続してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校関係者評価を踏まえ、次年度の教育活動については、さらなる充実に努めていく。

- ・宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」の授業展開を実践し、考えを深め広げられるよう授業改善に取り組む。
 - ・「みゆきっ子生活スタンダード」の振り返りを定期的に行い、きまりやマナーを守って生活することへの意識を日常的に培っていく。児童指導上のきまりにあいまいな部分があるため、指導の基準を明確にしていく。
 - ・英語は受け身ではなく、対話を楽しめる授業として工夫・改善していく。
 - ・相手に届く元気なあいさつが実践できるよう、児童主体の「あいさつ運動」を引き続き推進していく。
- キャリアパスポートを有効に活用して、保護者から励ましの言葉を書いてもらうなどの協力を得ながら、目標をもって取り組む児童の増加につなげていく。
- 学校は、地域・保護者と連携・協力しながら、各種行事や教育活動の充実に努めていく。小中一貫教育の取組については、さくら連絡網やHPなどで公開するなど、外部への情報発信を積極的に行っていく。
- ・学習指導については、I C Tの活用や情報モラルの育成に努めながら、主体的、対話的で深い学びの実現を目指して授業改善に取り組むとともに、ペアやグループでの話し合い活動の充実に努めることで、自分の考えを主体的に伝えられる児童の育成に努める。
 - ・家庭での読書を推進する意味でも、家読を推奨し、校内における読書活動の取組は、さくら連絡網やクラスルームに掲載し、外部にアピールしていく。
 - ・漢字・計算力を高めるために、AIドリルやステップアップシートの活用を充実させ、「家庭学習強化週間」の実施も検討していく。